

深川消防団ニュース



さきもり

発行 深川消防団
 所在地 〒135-0042
 東京都江東区木場
 3丁目18番地10号
 深川消防団本部
 TEL : 03-3642-0119
 FAX : 03-3641-4422

「第五分団」22年ぶりの優勝



第38回 深川消防団大会
 出場隊：指揮者 部長 高橋 佳久 1番員 班長 海老沢 貴文 2番員 班長 圓城寺 正和
 3番員 班長 森本 忠章 機関員 部長 関 篤史 補助員 副分団長 渡邊 斉



消防操法大会優勝に思う



第五分団長
 金山 建治

我が第五分団は、第三十八回深川消防団消防操法大会に於いて、参加選手はもとより、団員一同、訓練成果を遺憾なく発揮する事ができ、二十二年ぶりに優勝という快挙を成し遂げることが出来ました。

長年の願いでもあったことから、いまだ団員一同喜びに浸っております。これも一重に深川消防署、深川消防団本部、友の会、分団諸先輩の皆様からのご指導、ご支援の賜物と感謝しております。

また、第五分団受持ち区域の7町会および自治会の皆様には、日頃よりご協力を賜り、訓練時には激励を頂き、誠に感謝申し上げます。

地域の安心・安全の為、これからも引き続き消防団活動に邁進する所存であります。

今後とも分団に対しまして、皆様のご協力・ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

お祝いの言葉
第五分団大先輩より



第六代団長
武藤 庄一

第五分団の皆さん、優勝おめでとう
ございます。

世の中は、いつも平和ばかりではあ
りませんし、私が団長として努力して
いた頃と、今とは時代と共に考えな
ども変わり、思うように事が進まない
事もあると思います。とはいえ泣き言
は言っていないで。

我々は郷土愛の精神に基づき、これ
からも変化する時代に添える消防団で
ありたいと願っております。皆さんも
様々な立場があると思いますが、これ
からも郷土のために頑張ってください。



第七代団長
永井 昭次

苦節十年と云う言葉が昔からあるが、
よく二十二年にして勝ち取った。選手
は人に言われてやるのではなく稽古と
各人の研究の積み重ねです。
私たちOBも毎回、大会を見学してお

ります。
今年は五分団の出番が最後の十番目
と聞き、内心では不安を感じていまし
た。

ところが選手は最初から良い感じを
見せたのです。ポンプにエンジンがか
かり、指揮者から四番員まで五人が
各々の部に責任を持っている姿を目
前で見た時、不安は楽しみに変わしま
した。焦りもなく今迄にない出来で終
わった時に多くの拍手を頂き、優勝が
決まると二度目の拍手。

選手も団員も二十二年間にかけて一念。
今年、来年と良い事は続けて下さい。
おめでとう。



第八代団長
唐鎌 五郎

第38回深川消防団消防操法大会優勝
おめでとうございます。

私が第五分団の分団長をしていた時
以来、22年ぶりの優勝だそうで当日は
とても感動しました。日頃の訓練成果
が出ていたと思います。

「勝って兜の緒を締めよ」という言葉
があります。気持ちを緩めず、これか
らも消防団活動に励んで下さい。
おめでとうございます。

(第五分団 海老澤 編集員)

編集員と選手、二足のわらじ

第一分団編集員

3番員 宮島 慎一

次なる課題が見えた、有意な大会

今年も3番員での出場。昨年に引続
き二度目。それ程緊張感はない。操法
実施要領も読み込んだ。細かな規律も
頭に入っている。後は訓練通り実施す
るだけだ。

「集まれ」の号令がかかった。さあ、
スタートだ。3番員の私も「とび口」
を持って走る。操法終了まで、あつと
いう間の出来事だった。

特にミスはなかったはず。大丈夫、
大丈夫と自分に言い聞かせながら退場
する。結果が出た。今年は全分団の成
績が改善されているのがわかる。

今年の操法大会も順位という面では
パツとしない成績で終わったが、課題
は明確になった。得るものがあつた大
会であつた。若い団員も加わつての大
会だったので、先行きが楽しみである。

第三分団編集員

3番員 中島 沙江子

「操法大会を選手として終えて…」

今年は今まで感じた事の無い緊張が自
分の心の中に襲いかかってきた。
何回か選手を経験して本当に初めて。

色々と思う事はありますが、それは言
い訳にしかならず、本番で訓練の成果
を発揮出来なければ意味が無い。そう、
私は、今回の操法大会を終えて思いま
した。

ただ、これだけは言えます。
無事に怪我無く、大きな事故も無く操
法大会を終了出来た事にホッとしてい
ます。これからも気を引き締めて、消
防団活動に励んでいきたいです。
第五分団編集委員

1番員 海老澤 貴文

1番員を務めて4度目の操法大会。今
年こそは、メダルを取るぞと意気込ん
でいました。行動・動作・規律にもや
つと慣れ、リラックス出来ていたおかげ
で、念願叶って一番良い色のメダル
を取ることが出来ました。

ご指導、ご支援頂いた皆様、本当に
ありがとうございました。

第六分団編集委員

2番員 高野 俊勝

消防操法大会に参加して学んだ事があ
ります。

選手を指導・支援する分団員のチーム
ワークだと知りました。

この経験を活かし、これからも地域
の皆さんと協力し防火防災等、消防団
活動をしていきたいと思えます。

第七分団編集委員

3番員 藤田 享子

入団二年目で想定外の3番員、今年で二年目のおばさん団員ですが、老体に鞭打ちながら、苦戦しながらも楽しく参加させていただきました。

硬い安全靴で走ったのが良かったのか大会後、骨密度が10%もアップしたり経験が浅いのに長老ゆえ？ご指導いただいている状態！お世話になり、ありがとうございます！！

編集員の皆さん、二足のわらじ大変お疲れ様でした。・・・編集部より

都営地下鉄研修会

【期日】7月25日

【場所】大江戸線木場車両研修所



木場研修所では毎年何らかの訓練があり、昨年は大規模な災害からの救助訓練が行われました。今回は都営地下鉄大江戸線の火災に対する取り組みや、電車の構造などの座学でした。当日は、解体用車両があり、実際に救助をする為にはどのようにジャッキをかけるか等実践的な説明がありました。普段何気なく使用している地下鉄ですが構内の防災・防火・消火設備など気を付けてみると興味がわくかもしれません。



また、地下鉄大江戸線はリニアモーターで走行しているとの事、初めて聞きました。いわゆる浮上式のリニアモーターカーとは違い、レールに設置されている金属板と車体のモーターの間の磁界により走行するものですが、そのため車体と線路の間にあまり隙間がないため人身事故の発生場合、重大な結果を招く恐れがあります。対策として都営地下鉄大江戸線では全38駅にホームドアの整備が完了しているとの事です。

(第八分団 庄井 編集員)

平成二十八年度 江東区総合防災訓練

【期日】8月28日

【場所】都立木場公園

自衛隊・警察隊・医療チーム とともに合同訓練

担架班が二班編成され、一班は自衛隊員が車両を切断して救助した救助者を搬送。二班は、警察隊が倒壊家屋から救助した救助者を搬送しました。

我々消防団員も自衛隊員や警察隊とともに、医療救護所まで搬送し、医療チームに搬送者の状況報告するまでの活動を行いました。ダミーは60kgと一般成人とほぼ同じ体重でしたが、重く感じましたが4人での搬送はスムーズにできました！

(第二分団 平林 編集員)

実践的活動訓練

【期日】7月23日

【場所】深川消防署裏庭

常に訓練、さらに繰り返し訓練

震災時に備えて、消防団員が訓練に取り組みました。

団本部を主軸とした総合的な活動能

力の向上と資器材を活用した実践的な訓練です。

2個分団で班を作り、計5班に分かれて実施しました。

班構成は、A班現場実施隊・現場安全員、資器材取扱訓練を各班15分ずつ行いました。

現場の情報を団本部に無線で状況報告しながらのA班・B班両現場の要救助者4名の救助活動、資器材の取扱い訓練ではユニツール、チェーンソーなど、震災資器材の説明を職員から受けました。

無線を使った訓練では、報告のタイミングなどが難しそうでした。A班・B班それぞれの現場では、各団員が倒壊家屋の撤去に気を取られ、団員同士の連携が手薄になるなどの混乱に対して、職員から『各現場で指揮を取る人が一人出るべき』とのご指摘を頂きました。

訓練の成果が活かされるときが来ないことを願いながらも訓練の積み重ねの必要性を痛感したのでした！

(第七分団 藤田 編集員)



出張所と分団本部の開所式

豊洲出張所と第十分団本部

平成二十八年六月四日

〒13510061

江東区豊洲二丁目2番23号

6月21日より新庁舎で事務が開始となりました。



豊洲出張所の配置車両のうち、大型化学車及び屈折放水塔車は、大規模な油火災などの発生時に連携して活動します。平成15年に栃木県で発生した夕イヤ工場の火災にも派遣され、屈折放水塔車は、東日本大震災で被災した福島第一原発にて注水作業に派遣されました。

第十分団長 古田保広

豊洲出張所並びに第十分団本部新庁舎落成式が盛大且つ厳粛に挙行されました。

本庁より村上次長、同安藤企画調整部長殿と第七方面山本本部長、小黑消

防署長、小安消防団長、歴代団長、山崎江東区長、都・区議会議員そして、地元町会長、自治会長と多くの関係者に参加して頂き素晴らしい式典となりました。今後も益々発展する受け持ち地域の防火防災に団員一同努めてまいり所存であります。

第十分団 榎山編集員

署1Fに併設された団本部には、エアコン・ミニキッチン・トイレ・棚や車庫には水道設備があります。今までは集まる場所がなく、地域集会所や豊洲出張所の食堂をお借りしていました。これからは、この団本部に集まる事のできると、団員一同、関係者に感謝するとともにこれからも一層消防団活動に取り組んでまいります。

枝川出張所と第九分団本部

平成二十八年九月十日

〒13510061

江東区枝川一丁目2番



第九分団 岩淵編集員
待望の分団本部が開所!!

秋晴れのもと開所式、祝賀会が行われました。東京消防庁・山崎江東区長・都・区議会議員・歴代消防団長と多くの来賓の方々が列席されました。

枝川出張所は、昭和17年2月に開設され、現在に至るまで、地域の防災拠点の要として住民の安心・安全を守ってきたださった歴史ある出張所です。そして新庁舎とともに、さらなる地域の防災拠点としての使命をはたすべく、分団本部が併設されました。

9階建ての枝川出張所とは個別に入り口が設けられ、1階は格納庫・2階はフロアリング貼りの分団本部室となっています。

現在第九分団は18名が所属、各団員は、生業の傍ら、消防署・地域と連携を取り合い『町の安全と安心の強化へ』となるよう訓練を重ねています。

入団勧誘ポスター

作成にあたり、地域16団体の各町会、自治会の皆様にご協力頂きました。

消防団協力事業所

弊社は、防火・防災に積極的に取り組んでいます。

http://www.teisoh.co.jp/ E-mail:info@teisoh.co.jp
PHONE.03-3642-0121 FAX.03-3641-1763

TEISOH 株式会社 帝国倉庫
〒135-0024 東京都江東区清澄 1-5-1

消防団協力事業所

株式会社 **ムトウユニパック**

代表取締役 会長 武藤 庄一

私たちは、本社ならびに各事業所を通じ、地域社会への貢献を目指しております。



本社 / 東京都江東区永代 1-7-12 TEL 03-3642-1141 (代表)
http://www.mutoh-u.co.jp/
支店・出張所 / 城南・東京中央・城西・横浜・千葉・四ッ谷・さいたま
栃木・前橋・新潟・水戸・長野・大阪・仙台

夏の特別警戒

◆深川神明宮

第三分団地域 中島編集員

「深川神明宮祭礼子供祭りに伴う
消防特別警戒」

8月14日、お盆の時期に数年後・数十年後の将来を担う各町会の子供達が、一生懸命に高橋商店街（のらくロード）から御神輿を担いでいきました。

第三分団として、数カ所の訓練放水のポイントで放水をさせていただきました。

今年入った新入団員も含めて、必死にでも楽しそうに御神輿を担いでいる子供達の姿を目の前にして、放水にも力が入っていた気がします。

そして、大きな事故も無く怪我も無く、無事に終了出来た事にホッとしております。これからも、地元を大切に、地域の方々と協力して、消防団活動に励んでいきます。

◆富岡八幡宮

第六分団地域 高野編集員

54基（仮装神輿6基含め）の各町会の子供神輿が永代通りに集合し九時にスタートしました。

我々消防団も朝七時に集合し三個分団「六分団・八幡様前、仲二町会2カ所

五分団・門前仲町交差点銀行前。七分団・不動尊前」に別れて準備万端整え放水訓練を行いました。子ども達も、大変喜び夏休みの楽しい思い出になったのだと思います。

第九分団地域 岩淵編集員

深川の夏といえは？水掛け祭り!!

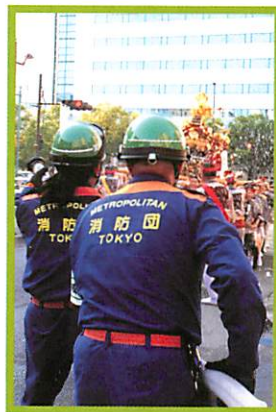
今年も、深川夏の風物詩！消防団放水訓練「神輿への水かけ」が各所で行われた。水不足による取水制限が懸念される中、神輿を担ぐ子供達や、水掛けを楽しみにしている人に、最小限の放水に配慮しながらでしたが、神輿は威勢よく町の中を巡行しました。



我が第九分団が所属する、枝川・塩浜・潮見地域では枝川二・三丁目町会のお神輿が新しく新調された。お神輿は快晴の空の下を神々しく光を放ち、その神輿を担ぎたいと多くの人が集ま

っていた。神輿がスタート。各ポイントに消防団が、給水と放水の為に資器材片手に自転車先回り。消火栓を開けるのはかなりの重労働だ。事故や怪我が起きぬよう放水する。おかげで、全身ずぶぬれになり、安全靴の中までぐつちより。そんな姿を見ていた方が、自分の家のホースで「消防団にも!!放水」と家族同様に水をかけてきた。

地域の中でまた一つ夏の思い出を作らせて頂いた。地域と消防団。お互いが助けあい、声を掛け合い交流する所から地域の防災は始まる。



第十分団地域 栩山編集員

豊洲地域では13日（土）に、二基の御神輿を子ども達だけで担ぎ、各町会を回りました。消防団の放水訓練による水掛けは大人同様に水を掛けられながら御神輿を担ぎ「ワッショイ、ワッショイ」と始めは声の小さい子ども達でしたが、各接待所でお菓子やジュース等を貰い楽しそうでした。担ぐうち慣れきたようで掛け声も大きくなり元気に最後まで担ぎました。

消防団協力事業所

弊社の社員も消防団員として活動しています。

社員一人ひとりが、防火・防災の知識・技術の向上に取り組んでいます。

ご宿泊・ご婚礼・ご会合等、お気軽にお問い合わせください。



ホテル イースト21東京

〒135-0016 東京都江東区東陽 6-3-3
03-5683-5683 (代表)
www.hotel-east21.co.jp

消防団協力事業所

「大震災はいつ起こるか
分からない」

弊社の社員も消防団員として活動しています。



丸八倉庫株式会社
江東区富岡 2-1-9 HF 門前仲町ビルディング 4階

第十分団員、適切な救急活動
深川五中盆踊り会場にて

7月24日(日)第十分団が豊洲町会主催盆踊り会場において、2歳の女児が意識を消失した。同行していた祖母が救急通報、母親の助けを求める声に対し、分団長が警戒団員に周囲の安全管理と消防隊の誘導及び女児の観察を下命。団員が女児を観察「普段通りの呼吸無し」と判断し、心臓マッサージを開始する、2〜3分後に意識を回復したため心臓マッサージを中止再観察した。間もなく、救急隊が到着し傷病者を引き継ぎました。救命訓練どうりに処置できホッとしました。

富岡八幡宮六部総代会が
救命講習を受講

【期日】7月18日・24日
【場所】深川消防署内

東京防災救急協会の講師を中心に、深川消防団の応急救命指導員・普及員による救命講習会が行われた。これは三年に一度、祭礼の時期の前に行われるもので、総代と若睦の希望者が、AEDを用いた救命処置と、気道に異物が詰まった際の除去の手当てや、止血の訓練をしました。例年、「深川八幡祭り」を盛り上げている、富岡八幡宮

神輿総代連合会の六部会(六和会)の皆さん他、地元90人が救命講習・再講習を受けた。はっぴ姿の神輿総代と活動服を着た消防団員。どちらも、訓練用に置かれた人形を真剣に見つめていた。教科書を使い座学を行う。その後、胸骨圧迫法、人口呼吸法、AED「自動体外式除細動器」を順番に実践する。AEDの実演では、消防団のメンバーによる実演が行われた。その様子を、真剣な趣で受講生が見つめ静かに耳を傾けていた。その後、実践では、一人に一人、消防団員が横につき、細かく指導をした。



受講する側の神輿総代も、教える側の

消防団員も、どちらも深川地域の住民。いざという時の緊急時に備え、同一地域の安全・安心」を思い学んでいたに違いない。

こうした、有意義な時間を過ごせたことを東京防災救急協会、深川消防署の皆様深く感謝いたします。

(第四分団 正本 編集員)
(第九分団 岩淵 編集員)

川せがき灯籠流し

小雨が降る中、小名木川兩岸の建物の明かりが川面に揺れ、その上を多くの灯籠が美しく漂っていました。高橋橋畔で行われている川せがきに参詣しました。

深川仏教会の主催で7月26日の夜7時から行われ、先祖や川で亡くなった方、東日本大震災の物故者を供養するため灯籠に戒名と供養する人の名前を書いて川に流します。各宗派ごとの船に乗ったお坊さんが、お経を唱えながら流していました。

深川消防団として震災で亡くなった方々のため灯籠をひとつ流してもらいました。
(第四分団 正本 編集員)

幹部視察研修旅行

【期日】6月11日・12日

バス2台での研修旅行でしたが、我が五分団には幹事経験者が1人もおら

ず、消防操法大会直後で慌ただしかったこともあり、準備は万端かと思いうちに出発当日になってしまいました。一日目は立川防災館にて防災教育の技術を学んだ後、長野県の横谷温泉旅館に宿泊。二日目は諏訪大社で深川管内の安全祈願を行いました。



参加された皆様には不安な面が多々あったかと思いますが、皆様のご協力のおかげで無事に幹部研修旅行を終えることができました。誠にありがとうございました。ございました。

次回幹事の皆様、来年を楽しみにしております。

第五分団副分団長 渡邊 斉

水分取り過ぎ注意

低ナトリウム血症 (水中毒)

2002年、アメリカのマラソンレースで低ナトリウム血症による死亡事故が続いておりました。いずれも女性の初心者ランナーで、水の飲み過ぎが原因と診断されています。

死亡事故の報道で、にわかに注目されるようになりましたが、ごくまれにしか起こらない事故とは限りません。細胞中の水が過剰になる事で起こり、軽症では無症状のこともあります。倦怠感、吐き気、嘔吐、筋肉のこむら返りなどの症状がみられ、重症になると肺水腫(肺に水がたまった状態)や脳浮腫(脳がむくんだ状態)から呼吸困難や意識障害などの症状が、最悪の場合にはこの事故例のように死に至ることもあります。

運動中におこる低ナトリウム血症の原因はまだよくわかっていませんが、はつきりしているのは、事故を起したランナーがいずれも水を飲み過ぎてレース後に体重が増加していることです。走る速度が遅く、レース時間が長くなるほど、また発汗量の少ない冬のレースほど、そして体重の軽い人(女性)ほど水が過剰になりやすく低ナトリウム血症の危険性が高くなります。

したがって、一流ランナーより市民ランナーに注意が必要です。

決められた量の水を無理に飲み続けることは、是非避けなければなりません。喉のかわきにに応じて適宜水分を補給することがすすめられます。それによつて過剰な摂取にもならず、また2%以上の過度の脱水を防ぐことができます。

注意!

子供にスポーツドリンクを過剰にあたえ、一年以上続けたところ幼稚糖尿に成ってしまった例もあるので、注意をして下さい。

子供達にあたえる時は親もよく勉強して、子供にあたえるように。

(第六分団 高野 編集員)

団員の家族を招いてファミリーデー(消防署開放)

【期日】6月29日(日)

【深川消防署裏庭】

昨年からはじめた消防団員のご家族を招いての消防署の解放・ファミリーデーが行われました。突然の出勤や日々の訓練などに快く送り出してくださる御家族に感謝を込めて...

スタートは家族みんなで集合写真を撮り、そしてそれぞれの体験をしていただきます。はしご車に乗ったり、ミニカーに乗ったり、キュータ君と一緒に



防災訓練(木場五丁目町会)

【期日】7月3日(日)

【木場五丁目公園】

に写真を撮ったり、子供用のユニフォームを着て、小さなお子さん達もまるで消防士になった気分です。消防車との綱引きもありましたね。

(第七分団 藤田 編集員)

スタンドパイプの取り扱いと木場公園内の防災設備の見学をしました。

最初は木場五丁目町内にある消火栓にスタンドパイプの取り付け方と放水の仕方を団員が説明をしました。ダムの漏水により、放水は少しだけにして、木場公園に移動しました。公園内のミ

ドリラムで簡単な説明を受けた後、公園内の設備を見学しました。防災ポンプ(井戸)や防災トイレ(公園の北側と南側で合計36個)。トイレの上に設置できる個室用のテントの設置を見学しました。まだ江東区には洋式の便座はないそうです。地面に設置されている便器は東京都所有で、テントは江東区所有だそうです。管理が別々なんです。緊急時の連携が大丈夫かちょっと疑問に感じますが...。最後は、二種類のかまどを見学(普段はベンチです)。



防災トイレの蓋

広い公園の中には色々な設備が隠れています。いざというときに誰もが使えるように各町会で確認していただきましたね。

(第七分団 藤田 編集員)

夏祭り警戒中の救急処置に対し、
深川消防署長より救急活動功労

7月24日(日)午後19時29分
豊洲四丁目、深川五中グラウンド

第十分団が盆踊り会場で警戒中に、
2歳の女児が突然意識を消失し、心臓
マッサージが適応となる状態に陥った
救急事案です。古田分団長の適切な下
命のもと、各団員は傷病者対応や安全
管理を実施しました。分団長を中心と
し組織的に対応した結果、女児の意識
を現場で回復させ、消防隊へ引き継ぎ
を行いました。

十分団の一連の活動による功労は多大
で日頃の訓練の成果が出ました。

小黒深川消防署長から表彰を受ける
第十分団古田分団長



平成28年深川消防団幹部夏季懇親会

第三十八回深川消防団
消防操法大会結果

準優勝 第四分団

昇英夫人 眞正 靖一 馬
岩木西村 藤上 堀内
長員 員 員 員
班員 員 員 員
指揮者 1 2 3 補助員



第38回 深川消防団 消防操法

第3位 第三分団

大野浩一 大野竜弘 中島沙江子 野津公太郎
分団長 団員 班長 団員
指揮者 1 2 3 機関員



入賞分団・優秀個人賞
選手の皆様
おめでとうございます

優秀個人賞



指揮者 第九分団 森田 嘉智



1番員 第四分団 木村 真人



2番員 第四分団 小西 英夫



3番員 第二分団 宇田川 敬司



機関員 第八分団 松城 康夫

表彰者の紹介 操法大会以降の

消防庁長官表彰

(退職報償) 5月2日

元第四分団 副分団長 佐々木 正広

深川消防署長表彰

(救急活動功労表彰) 8月25日

第十分団

7月24日(日)午後19時29分、

豊洲四丁目11番で開催されていた、
盆踊り会場の警戒現場で発生した
救急事故に対する活動功労

消防署の指導者紹介

警防課 高橋 課長

毎日勤務 小坂 防災安全係長

伊藤 消防団担当主任

板井 係員

一部当番 内田 主任(特別救助隊長)

古谷 副主任(はしご隊機関員)

二部当番 川田 副主任(特別救助隊長)

三部当番 坂西 主任(はしご隊長)

さきもり編集委員

分団名	任務	階級	氏名
団本部	監修	団長	小安 勤
団本部	編集委員長	副団長	椎名 貞雄
団本部	編集責任者	分団長	渡邊 美憲
一分団	編集補佐	副分団長	長谷川 祐二
一分団	委員	員	宮島 慎一
二分団	委員	班長	平林 忠之
三分団	委員	員	中島 沙江子
四分団	委員	班長	正本 光生
五分団	委員	班長	海老沢 貴文
六分団	委員	班長	高野 俊勝
七分団	委員	班長	藤田 亨子
八分団	委員	副分団長	庄井 勤
九分団	委員	員	岩淵 初美
十分団	委員	員	榎山 美恵子

編集後記

水不足の中、操法訓練とおもいき
や、その後は台風10号(激甚災害に
指定)スーパー台風14号(台湾に甚
大な被害)18日現在、台風16号が九
州から関東を通過かと、今年も多く
の被害に見舞われております。
我々消防団員は、自然災害の怖さ、
それに備えるべく日頃の訓練の大切
さを痛感しています。そんななか、
夏祭り警戒中の救急活動(第十分団)
では分団長を中心に組織的な活動を
しました。これは日ごろの訓練成果
が出たものです。改めて訓練の大切
さを感じております。

これからも、「さきもり」誌面上で
多くの情報を発信すべく編集員一同
頑張ります。・・・さきもり編集部